工部電気工年斗争委員会 結成！

エーム……ス……[illegible]我々クラス斗争委員会は電気工学科が、電気工学の学友諸君に大衆的かつ組織的にクラス斗争委員会の結成のアピールをしたい。

我々が一年有余の長い年月に渡って闘争に決起したのは、日大当局のファッショ的アウシュビッツ体制化の強化と、又我々学生であるが故に[illegible]、主体性を[illegible]の中に、日大当局の圧力に対し日大をもって、大学本来の[illegible]を取り戻すため、[illegible]個人の人間の尊さを守らせんとして斗って来たのである。

六八年〜六九年に全共闘を中心に斗われてきた日大斗争が[illegible]ておかつ、[illegible]再度強化日大生であるが故に[illegible]てはならない。生・教授会で見られるような[illegible]を支持し、学内においては人権として公に言論出版の保障されるべく言論・集会・結社の自由（第二十一条）が奪われている。我々理工学部においても[illegible]を無視して更に日ドイツのアウシュビッツ収容所の中で我々は学んでいるのである。さらに日大当局となれあいの御用的な教授を中心とする体制としているのである。

個人的なレポートと個人的なカリキュラムで、日大が[illegible]の中心として御用体制構造、[illegible]として、教授者と学生の二層を[illegible]ている。体制御用学生に学内サークル活動等を不可能な状態に押し込めている。さらに右翼体制と御用学生の援護である。我々は真の学問とは何かを考える必要があろう。又、この大学[illegible]の弾圧、五大スローガンは大学においては基本的なものであり、これを確約させない限り日大斗争は続く。

[illegible]をひるがえし、前進の展望のもとに、日大闘争に結集を、再度我々が大学をとりもどさなければならない。

先日我々は六・一三日大本部斗争[illegible]、全学アウシュビッツ体制を粉砕、[illegible]センターの学生会館を要求した事と、理工工学部斗争委員会の統一の下に五十名の工学部斗争委員会を結成した事を、[illegible]日大斗争の勝利するまで、アウシュビッツ体制が存在している限り、限りなく斗う事を[illegible]した。

旧自治会[illegible]学生諸君ら一人でも十分に[illegible]としてその体制に[illegible]、ぜひアピールする斗争として、[illegible]として我々は[illegible]を[illegible]ことに訴える。

日大 理工学部 工部 電気工年斗争委員会